

2024年度における経営陣等と株主との対話の実施状況等について

2024年度は、以下のとおり、株主と対話を実施しました。

株主との対話の主な対応者	取締役 専務執行役員、執行役員、IR 担当部長、IR 担当
対話を行った株主の概要	国内機関投資家、個人投資家
対話の主なテーマや株主の関心事項	・当社のビジネスモデル ・当期業績の推移 ・中期経営計画の重点施策・取組み状況 ・資本政策の概要・具体策 ・株主還元策の方針 ・議決権行使基準について ・E S Gへの取組み
	特に株主から気づきが得られた対話、経営陣等の説明により株主の理解を得られた対話の事例 <u>当期業績について</u> ・売上高は、第2四半期まで海外における海上運賃の正常化の影響を受けたものの、国際複合輸送業の順調な取扱い推移ならびに三重朝日物流センターの年間を通じた安定稼働、医療・介護用食品専用センターやタイ現地法人の新倉庫の稼働、半導体関連材料を中心とする取扱量の増加が寄与し、前期比増収。 ・経常利益は、三重朝日物流センター稼働に伴う準備費用、資金調達関連費用および退職給付費用の減少、料金適正化の継続的な取組み、効率的なオペレーションによる生産性向上とコスト最適化などにより、前期比増益。 ・親会社株主に帰属する当期純利益は、上記の要因に伴い前期比増益。 ・社会インフラとしての当社物流サービスの重要性について

当社事業および環境について

- ・三重朝日物流センターの稼働状況
- ・亀山定温危険品倉庫の稼働状況
- ・危険品物流への取り組み状況
- ・タイ現地法人における自社倉庫増坪の稼働状況
- ・医療・介護用食品専用センターにおける省人・省力化の仕組み構築
- ・2024 年問題における影響および取り組み状況
- ・経営基盤である四日市港における優位性および背後産業の状況

環境課題に貢献する事業活動について

- ・取引先との協業による、トラックによる輸送手段に鉄道輸送を組み込むなどのモーダルコンビネーションの実施
- ・化学品物流の拠点間輸送における RORO 船、鉄道の輸送の実施
- ・鉄道および内航輸送を活用したバルクコンテナ輸送やコンテナラウンドユースの導入、リサイクル物流、海上コンテナシャーシ管理システムの導入、車両の大型化・パレット化等
- ・TCFD 提言に基づく情報開示の一環としての SCOPE 1・2・3 の算出
- ・太陽光発電システムを敷設および発電電気の当社グループ内での消費、CO2 フリー電気の調達による GHG 排出量の削減
- ・みえ水素ステーション合同会社による移動式水素ステーションの運営
- ・発電用バイオマス燃料を取扱う専用センターの運営
- ・四日市港のカーボンニュートラルポートに向けたバイオディーゼル燃料実証実験への参画

地域社会課題に貢献する事業活動について

- ・従業員全員参加型のサステナビリティ活動実施
- ・地域における SDG s 推進活動
- ・地域企業との協働で従業員による海岸清掃や里山保全などの生物多様性への取り組み実施
- ・物流施設におけるビオトープを活用した生物多様性推進ならびに子供の教育・地域交流への貢献

	・非常食の NPO 法人への寄付ならびにリメイク活動によるフードロスの削減、社会への貢献 ・災害時における施設利用に関する支援協定締結による地域貢献 ・地域住民との合同避難訓練の実施 <u>人的資本経営について</u> ・働き方改革への継続した取り組み・推進 ・多様な人財が活躍できるための人事制の充実（エリア管理職の新設等） ・防災・BCP 研修の充実・実施 <u>株主還元や P B R 1 倍超に向けた資本政策</u> ・PBR 1 倍超を達成し、企業価値を向上させるための施策 ・IR 活動の充実策としての情報配信コンテンツの拡充
対話において把握された株主の意見・懸念の経営陣や取締役会に対するフィードバックの実施状況	IR 推進委員会事務局が対話の概要をまとめ、IR 推進委員会に上程するとともに取締役が出席するサステナビリティ委員会で報告。
対話やフィードバックを踏まえて取り入れた事項	ホームページ・サステナビリティレポート・決算説明会（オンデマンド配信）資料の内容充実、IR・広報活動の拡充
その他の対話	決算説明会（オンデマンド配信）の実施、ホームページおよびサステナビリティレポート等での情報の開示等